

団体名	事業等の名称	事業の実績		概要		交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
		事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体の自己評価		
弥栄小学校おやじの会	被災地体験(学校に泊まる)事業	「阪神淡路大震災」、「新潟中越地震」、「海外で発生した地震のニュース」などを通じて、いつ発生するか分からない地震への関心が高まっている一方で、地域の防災訓練への子どもの参加は少ない。このようなことから、被災を想定した状況を設定し、実際に被災した時でも的確な判断を行うとともに、災害に対する強い心の育成を図る。	広域災害指定場所を弥栄小学校と仮定し、仮想被災体験者がA棟玄関前に集合し、児童34名・保護者23名・先生6名・自治会6名 計69名による開村宣言が行われた。相模原市消防署緑が丘分署署員2名の炊き出し訓練指導により非常炊飯(ビニール袋炊飯)を体験した。また同署による高所作業車実演作業の見学をした。夕食は、非常炊飯(ビニール袋炊飯)・缶詰(魚・肉)・ゆで卵・きゅうり・トマトの食事を体験した。分別後片付け(生ごみ・缶・プラスチック・燃えるごみ)のごみの分別作業をした。そして、夜に建物内で停電を想定し電灯のない場所での歩行訓練を実施した。弥栄小学校体育館にて、マット運動用マットを枕・布団にて宿泊体験をした。8月22日(日)、午前5時に起床後、体育館清掃・マット片付け・自分の荷物をまとめて朝食準備を今回は指導無しで、非常炊飯(ビニール袋炊飯)と味噌汁(ジャガイモ・わかめ・にんじん)の調理体験をした。朝食後、後片付けをして、午前7時30分に閉村宣言・解散となった。	被災地体験(学校に泊まる)の事業は、大きな2つの目的のもとに行われた。1つは青少年の健全育成と2つ目は、地域の防災・防犯である。この2つを同時に合体させたユニークな事業であった。子どもたちが被災に遭遇しないことを望むが、将来いつどこかで被災に遭遇するかも知れない。万が一遭遇した時に、今回の体験を大いに役立たせ、そのような場合でも、リーダーシップをとれる人材に育てていくであろうという効果があったと思う。また、近隣の地域の方々も、今回の事業には、多いなる関心をいただき、小学校と地域が融合する事業としては大変な価値があったと考えられる。将来に向けて地域全体で行う子どもたちの育成・安全・防犯に取り組むことができる、さらなる発展を予感させる効果があったと考える。	今回、東北地方で起った未曾有の大災害では、学校の体育館に避難した方々のご苦労や不便さが連日報道されているところである。こういった、大災害に先駆けて学校の体育館に泊まり避難生活を送るということ子どもたちに体験させられたことは、有意義であったと反省会での意見があった。この企画は、一過性のイベント的なもので終了させるのではなく、継続することで、大災害に備える意識を育て、災害時には本事業で培った強い心や経験が生きてくるのだと考える。今回の事業は、学校と地域の共同作業で、地域で子どもを育成する、地域が子どもを守るという理想的な地域社会の在り方を考える、第一歩だったようにも考えている。	H22.8.9	114,000
シニアふれあいサロンin西門	高齢者のためのサロンづくり・運営	地域活動とのかかわりが少ない方が陥りやすい「認知症」の予防策として、交流(おしゃべり・歌声・趣味の会)や介護予防を目指す事業を展開し、社会の陽だまりに出難いシニア層の「心身に亘る健康づくり」を図る。	急増傾向にある高齢者が地域とのコミュニティを持ってない状況で自宅に籠もりがちになったり、独居生活の中で精神的に追い詰められるという社会現象が現実化しております。これらの地域課題を解決するため、多くの人たちが気軽に通える「シニアの溜り場」を提供し、「交流の場」と「生きがいづくり」の機会をつくり、「元気で楽しいセカンドライフ」を過ごしていただくためにこの事業を企画しました。 交付金の交付を受けてから、ウクレレ教室、ちぎり絵教室、筆遊び教室、うたごえサロン等を年間を通じて32回実施し、延べ35回実施した。	常設のコミュニティカフェでの“おしゃべりサロン”を活動軸に定例的な、うたごえサロンや各種教室を実施した結果、当初、述べ1500名だった利用者が今年度は述べ2000名を超えた。これは、地域シニア層の居場所づくり、生きがいづくりに役に立っている。利用者は毎回この場所に来るのが楽しみですとのうれしい言葉もいただいている。 認知症予防、介護予防との普及を通して“まちづくり”に貢献していきたい。	中央地域の近隣のシニア層の利用者は、増加しており、確実に地域に根ざしたサロン運営を心がけてきた結果が出てきた。ウクレレ教室や筆遊び教室の実施、特に、新宿のうたごえ喫茶からプロの講師を招いて行うイベント「シニアうたごえ inさがみはら西門」では、2回開催したが100名を超える参加者があった。今後も、この事業を通じて、高齢者の居場所づくりや生きがいづくり、地域住民が“元気に老いる”ことができるようサロンの内容をさらに充実させていきたいと考えている。	H22.8.26	880,000
FCボランティア	相模原警察署前交差点植樹帯清掃美化事業	国道16号の相模原警察署前はさくらまつりのスタート地点であるとともに、相模原市役所の玄関口とも言える場所である。この場所を除草し花苗を植えることによって環境美化を図るとともに、中学生と一緒に行うことで自分達の住むまちへの愛着心と環境美化に対する意識の高揚を図る。	中央中の卒業を控えた3年生と卒業記念の植樹を行った。 ●H22. 11. 25～12. 1 除草、除石し、土入れ、水仙、チューリップを植えた ●H23. 2/17、2/24、2/25、3/2 芝桜植苗のため根起こし ●H23. 3/3 F・Cボランティア17人と、中央中3年生43人・教諭1名とで、芝桜264苗、ゼフィランサス750球を植樹した。	水仙は咲き揃い、チューリップが芽を出しはじめ、本事業に参加した中央中の生徒たちにとっては、良い卒業記念事業とすることができた。また、中学生自らが、自分たちの住んでいるまちへの愛着心と環境美化に対する意識の高揚を図ることができた。	地域活性化事業交付金を活用させていただいたことによって、これまで、2季節しか花を植えることができなかったが、季節ごとに花が楽しめるよう、花の苗や球根を植栽することができた。事業実施後、当団体に加入したい旨の問い合わせもあり、今後も地域の環境美化を推進していきたい。	H22.10.19	175,000

団体名	事業等の名称	事業の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
		事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体の自己評価		
高根二丁目自治会	世代を超えた文化交流事業	高根二丁目自治会では、「地域の子どもから大人までみんな知り合い」を自治会の目標に掲げている。今回、当自治会の目標である「地域の子どもから大人までみんな知り合い」の原点に戻り、地域に住む人々の才能を発表する場を提供することによって、地域の人を知り、さらに仲間を増やすきっかけづくりを行い、自治会加入の促進を図る。	1 「みんなで生け花」では2点の作品を完成させた。 2 「みんなで書」は象形文字の組み合わせで3m×1.5Mの味わいのある大きな作品が完成した。 3 90歳の会員の講師により「戦争を知らない子どもたちへ」と題した講演を行った。 4 高根の中高生による高根ブラバンドの演奏では、クリスマスキャロルを含め4曲の演奏をした。 5 高根の移り変わりの講演では、古い写真で現在と過去を見比べるクイズをしながら、パネルディスカッションのようになった。 6 舞踏・民謡・子どもたちの合唱、ダンス、カラオケと日本伝統芸能の披露と最近の歌のコラボレーションで子どもから大人まで一緒に楽しい時間を過ごすことができた。	今回の事業を通して、自治会事業の大切さを改めて認識するとともに、自治会員にも、良い雰囲気の中で、自治会の魅力をPRすることができたと感じている。 このような、自治会員が参加しやすい事業を行うことが、自治会加入のメリットとなり、ひいては、安全で安心して快適に過ごせるまちづくりができるのではないかと考えている。 本事業を重ねることによって、自治会の活性化を諮り、自治会加入促進を図っていきたい。	初の試みであった自治会主催の文化祭は、予想を超える参加者があり、会員に大きな関心を与えたと考えている。今回の事業の参加者数は、この数年間で培った地道な小さな事業の積み重ねが実を結んだものである。「子どもからお年寄りまでみんな知り合い」の精神は少しずつ、地域に根付いているように思う。この精神が会員一人ひとりに浸透し、安全で安心したまちづくりに役立てていけたらと考える。当自治会は、高齢化が進み、自治会のあり方、運営方法を考えるあらたな局面にぶつかっている。そのためにも、中間年齢層にも楽しく参加できる場を提供し、高齢者層の自治会離脱を防ぐための方向性を見出すことができた画期的な事業であった。	H22.10.25	145,000
中央地区社会福祉協議会	中央地区安心情報キット整備事業	災害や事故等の万が一の際に、高齢者本人の状況などについて、救急隊や第三者が速やかな把握を行い、適切な救急医療体制の確立を図る。また、キットの配布を通じて、地域から孤立しがちな独居高齢者等が地域住民と顔の見える関係づくりの構築を図る。	自治会、地区民生委員児童委員協議会、地区老人クラブ連合会、地域包括支援センター等関係団体・機関との協議の場を設け、中央地区内に在住する独居高齢者等に対し、緊急時に必要な情報を記入し冷蔵庫に保管するキットを作成した。	高齢者の方など、特に急病など緊急時に不安のある方を対象に、地区社会福祉協議会(地区社協)が専用の容器(ケース)、緊急連絡表、シール(2枚)を使ってとっさの時の備えを支援するしくみを構築することができ、独居の高齢者や災害時等に、対象者を発見した人が持病や医療情報を確認することで迅速な処置や緊急連絡先が記入されていることで、適切なケアを受けることができる。	独居高齢者に限らず、高齢者に対してこのようなしくみを構築し、とっさのときに誰でも、対象者の情報を的確に得ることができる本事業は、安心安全のまちづくりの一助となり、災害時でも適切なケアが受けられる画期的な仕組みと思われる。	H22.10.25	290,000
中央地区版広報紙編集委員会	中央地区版広報紙発行事業	誰でも見ることのできる中央地区版広報紙を作成配布し、情報を発信することによって中央地区内の活動団体の連携強化と担い手の発掘育成を図る。	中央地区におかる活動団体の紹介や中央地区に関する情報を掲載した中央地区版広報紙を2月15日、3月15日に発行した。 中央地区内で活動する団体を紹介する小冊子については、東北太平洋沖地震の影響による計画停電のため発行中止となった。	中央地区で活動する団体の活動内容の紹介や、中央地区のまちづくりに関する情報を一つにまとめ掲載した広報紙を発行したことによって、幅広い団体の活動内容の紹介と中央地区のまちづくりに関する情報を提供することができた。	地区内で活動する団体は、それぞれ個々に「広報紙」を発行してきたが、それらをつつとまとめ広報紙を発行することによって、中央地区のまちづくりの統一性をもたせ、中央地区内で活動する団体間の連携強化を図ろうと本事業を企画しました。 結果として、情報を提供したことによってそれぞれの団体が、年間を通じてどのような活動を行っているのか把握しお知らせできた。しかし、まだ、個々の団体の連携強化が図られてきているとは言えない。	H22.10.27	347,000

